

新春座談会

▼明けましておめでとうございます。いよいよ八〇年代の幕明け。その最初の年、何が待っているか、またどう闘うか。次の仲間に乗って来たとき、語り合っていたとき、皆さんも、各家庭で、各職場・地域で語り合っていたとき、そして、結んだ三池炭鉱労働者の絆を確かめ合い、さらに団結を強めて歩きましょう。

徳永義信さん(47歳。四山掘進)、古沢栄一さん(44歳。三川採炭)、本田慶二さん(34歳。三川仕上げ)、中島國博さん(47歳。本所配電)、市成義弘さん(43歳。港務操車)。なお司会は森田書記長でした。

統一と団結を

いよいよ早くなるか

フンマン結集し闘おう

余りにもみじめな暮らし

司会(森田書記長)

過去二年間、生活を守る闘いでは春闘、夏闘、秋闘、年末闘争を、命を守る闘いとしては災害防止や三川の裁判闘争、そのなかでも注目される遺族要求闘争、さらに総選挙闘争と闘ってきたわけですが、春闘での一方百五十円賃上げは頭につきません。

まず、以上の闘いに対する率直な意見をだしていただいて、そのうえで八〇年代の最初の年の闘いの課題を闘いについて展望していただきたいと思います。

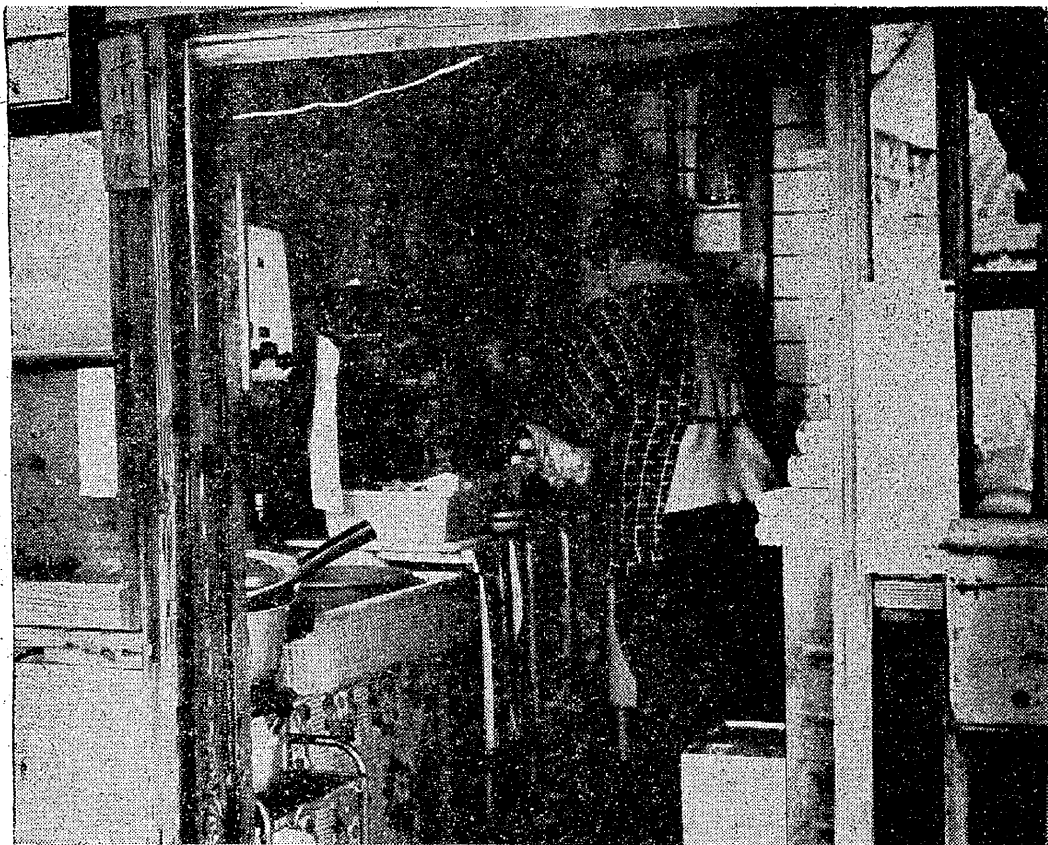
相撲を見ていよう春闘

古沢 何と云っても、春闘のことですね。毎年このことから、行事になっている。言葉でいわれることは大衆路線で、事実上はまるその逆。賃上げなど、要求はいつだれが出すのか。それを問題にしたいのです。

今は、組合員みんなが、炭労と経営者が相撲をどつている状態を、まわりから見ている状態。下の下から掘り起こし、そして上から要求を押しつけていってほしい。たとえ限界があっても、みんなの闘いになるのでは……。

徳永 組合員は、春闘で必死に闘っている。マスコミが先に立ってシャベリまくる一面の影響もあって、みんなは闘う前にもうパンをばいじっている。北海道の友山の深刻な実態でもわかる、もうダメです。

本田 要求をだすのからして遅い。だしたことを聞くと、も



鉱員社宅の勝手。今年はどうな暮らしが待つか？

かわら版

新年会シーズン
お酒を呑んでエントリしていただきます。

客「お父さんば〜」
子「お父さんば〜」
客「お母さんば〜」
子「お母さんば〜」
客「お父さんば〜」
子「お父さんば〜」
客「お母さんば〜」
子「お母さんば〜」

客「お父さんば〜」
子「お父さんば〜」
客「お母さんば〜」
子「お母さんば〜」

客「お父さんば〜」
子「お父さんば〜」
客「お母さんば〜」
子「お母さんば〜」

どこへ消える賃上げ

目安単価のサジ加減一つ

市成 いくら海務所では差別配給の有力な道具になっていく。目安単価がある。加減でおさえられている。仕事を押しつけている関係から、賃上げが、どこへ消えるのか、メクラです。

徳永 春闘で大きく問題にあつたにしても、目安単価のサジ加減でおさえられている。仕事を押しつけている関係から、賃上げが、どこへ消えるのか、メクラです。

古沢 標準作業量というものが、向うの勝手である。変わるので、計算しようがない。働いた本人が、「だいたいこいんぐらにはなるだろう」と思うだけ。そんなことで、賃上げと聞けば、賃金が上がったような気がする。実際は、いざ実際に受けてみると前とたいして変わらない。炭がどうかが、同じ。

徳永 昔は、単価、標準作業量というものがちゃんときまっていた。後、会社が勝手に「低標準・高賃金」を宣伝し、そして三池闘争がすむとパツパツ、賃金形態をあらわしてしまつて、いつの間にか単価や標準作業量のことがないで、きいているわけですね。

三池労組員には壁

つけ届けでもすれば……

市成 港務所の私の場合、勤続二十二年で十三万七千円の月給です。一日休めば、それだけ差し引かれる。本物の月給を要求する声が強いですね。級・号でいけば、三池労組員はほとんど二級七号。実際には、一

今日の話にさえ、ある職場の人など、出勤するとき車係員を連れていき、そのうえ係員のペントウまで女房につけてもっていき、車に乗せて出かけている、といったことも聞かれています。

田んぼを手放した昔も……
中島 クレーンどころか、昔の話に、ぜひ職員になるうと思

家族ぐるみの立ちあがり
徳永 以前は、出勤するにも人より一時間以上早く出かけては、繰り込み場で、よく職制に

家族ぐるみの立ちあがり
徳永 以前は、出勤するにも人より一時間以上早く出かけては、繰り込み場で、よく職制に

家族ぐるみの立ちあがり
徳永 以前は、出勤するにも人より一時間以上早く出かけては、繰り込み場で、よく職制に

家族ぐるみの立ちあがり
徳永 以前は、出勤するにも人より一時間以上早く出かけては、繰り込み場で、よく職制に